

足利風 -ashikaga-fu

2020
2月号
Vol. 66



イラスト：あべ あやこ

足利市民活動センター

開館時間：平日 午前10時～午後7時

〒326-0051

栃木県足利市

大橋町1丁目2006-3

TEL 0284(44)7311

FAX 0284(44)7312

mail info@shimin-act.jp

HP <http://www.shimin-act.jp>

HP QR コード



☆ ご案内 ☆

- *特集！
- *TOPICS
- *私のボランティアことはじめ
- *サークル紹介
- *インフォメーション
- *センターからのご案内

* 一人はみんなのために みんなは一人のために *

“風に立つライオン”という「さだ・まさし」の歌が好きな37歳の好漢が、不慮の事故で亡くなってから20年になる。足利の女性たちがみんな涙を流した、と言われた。ラグビー好きな一人の男は、確かに若者たちを育て、足利のボランティア・シーンを変えた。彼の無念さを胸に、若者たちは現在(いま)、社会人として、それぞれの分野で活躍をしている。“風に立つライオン”のモデルは、長崎大学熱帯医学研究所からナイロビに派遣された若い医師。恋人や故郷から離れ、満ち足りた現実には甘えなくて、澄んだ瞳の患者たちに向き合う苦難の道を選んだ。早逝した若い一人のボランティアはきっと、“風に向かって立つライオン”でありたい、という若い医師と自分を重ね合わせていたに違いない・・と、思う。善く逝く～善逝(ぜんせい)と言う。



平成の終わりの歳の暮れに、一人の書家がひっそりとこの世を去った。61歳だった。社会教育主事として、水俣から石牟礼道子さんを片田舎の街に呼んだ。私は学生時代から胎児性水俣病の患者さんの支援で水俣に通い、石牟礼さんとは面識もあり、話もしていた。正直、驚いた。彼は、水俣やハンセン病患者さん、被差別部落の方々など、言われなき差別を受けている人たちと同じ地平に立ち、温かい視線を持った“共苦”の人であった。彼の渾身の書が、足利市民活動センターにある。“愛の反対は無関心”。何度か書いてもらおうとしたが、「あれ以上のものは書けないよ」と、断られた。マザー・テレサの言葉だ。私が、インド・コルカタでマザー・テレサと話した時にも彼女の口から出た言葉だった。彼の遺作のこの書を見るたびに、“共苦”そして、“ほんものの愛”とでもいうものによって、差別されたり、被災された人たちに寄り添うことの大切さを思い知る。大いなるものによって生かされている自分というものを・・思い知らされる。

(M生)

* 茶論“南北朝の足利”大好評！ *

9月21日(土)午後の足利市民活動センター3Fみんなの広場で開催された茶論“南北朝の足利”は、清水弘一・日下部悲天・鈴木光尚の3氏がリレー形式で、足利源氏の棟梁たちの和歌・足利尊氏の歴史的評価の変遷・尊氏の弟直義(ただよし)の人間像や観応の擾乱(じょうらん)結末・・などなど、普段聞かれないとっておきの秘話が語られ、参加者も興味津々で大喜びでした。

動乱の南北朝時代という話題を通して、足利の魅力が再発見されサロンとなりました。特に直義という西行と並ぶ“動乱の時代の心静かなる男”の魅力は知れば知るほど尽きることがない、と感じました。

* 足利に相応しいソーシャルデザイン *

北村 隆



昨年1月29日の「両毛新聞」誌上『論考』において、NPO法人足利の風理事長鈴木光尚氏は、「風格あるまちづくりとデザイン力」と題して、次のような論を展開していました。

「NPO法人おてらおやつクラブ」がグッドデザイン賞に輝き、大きな反響を呼んでいる。これまでの「デザイン」とは、商品価値を高めたり、消費活動を促すためのものであった。今回初めて社会基盤をつくる仕組みに光が当てられた。目には見えないが、創造力で世の中をより良くしたいという社会貢献活動の志が高く評価される時代に入ったと言える。

筆者は「おてらおやつクラブ」の実情については、よく承知していません。しかしながら、同氏が「デザイン」の内実を分類した上で、社会貢献活動の志に注目して論を進めている姿勢に、改めて教えられる、或いは再認識させられる思いがします。

同氏が理事長をしている「足利の風」は、東日本大震災以降、東北の復興を様々な形で支援して来ました。その中に「ふくしまベストデザインコンペティション」があります。それは、ソーシャルデザインの中から「志の美しさ」を具現化させようとする一つの挑戦のようです。

同氏は地元足利にも熱い眼差しを注いで、次のように論考を結んでいます。

足利という街は起業家精神あふれる風格ある街でもあった。先達たちの事例も数多くある。以前とはかたちを変えた、目利きや旦那衆の志や夢は、渡良瀬の伏流水のように脈々と足利に流れているはずである。

ここで本稿の結びとして、筆者のまとめを述べてみます。

国際化・多様化・迅速化そして情報化など情勢や事情や時代背景など列挙すれば、たちまち漏れや誤りが生じてしまうような現代です。足利独自の或いは独特のソーシャルデザインを描くことは、極めて難しい課題のように思われます。しかしながら、同氏が提言する「志の美しさ」や「夢」を足利市民が共有した場合は、「足利に相応しいソーシャルデザイン」の現実は、可能かもしれません。またその希求は、持続しなければならないことと思われます。

企業家の先達としては、明治28年の足利銀行創立に主導的役割を果たした荻野萬太郎氏を挙げる事が出来ます。荻野氏が存命中に出版された著書「適齋回顧録」には、当時の足利の織物業や商工業それに金融の様子が詳細に記されています。この貴重な著書の購読を手掛かりとした、商工業・金融業そして文化の各種資料検索の具体的継続は、足利の社会的基盤強化のための「足利に相応しいソーシャルデザイン」の実現に繋がる可能性が、十分あると想像しております。

* 「とちぎ子ども権利条約ネットワーク」設立！！ *

2018年11月足利で子どもの権利条約全国フォーラム2018inとちぎを開催させていただきました。そして2019年12月15日にこのフォーラムを機に繋がった仲間たちと「とちぎ子どもの権利条約ネットワーク」を設立いたしました。

県内で活動されている団体とのネットワーク活動と子どもの権利条約の普及啓発を軸に様々な活動をしていきたいと思っています。

(事務局)三田和子

① インフォメーション ①

☆「まちの縁側」～読書サロンへのご招待～

だれにでも心に残る一冊の本があります。童話・小説・詩集・・・等々。
その一冊の本を導きの糸として、案内人を囲んで、参加者のみなさんと一緒に、
ワイワイガヤガヤ・・・と。新しい人との出会いや物語を紡いでみませんか。
どうぞ、お気軽にご参加ください。

★2月21日(金) PM2:00～4:00

* 本 : 「おぞね・としこ詩集」

* 案内人 : 新楽 正 さん

* ひとつこと: 「・・・探しても 探しても あなたの望む花がないなら 自分がそれにおなりなさい・・・」～重度の脳性まひのハンディを背負いながら”車いすの詩人“として活躍してきた小曾根俊子さん。障がいを持った人の詩に曲をつけて歌う”わたぼうしコンサート“の華だったトッコ。

「愛は藍色」をはじめとする詩集の中から、思い出深い詩の数々をみなさんとごいっしょに！

★3月13日(金) PM2:00～4:00

* 本: 「隠された十字架～法隆寺論」(梅原 猛)

* 案内人: 白田 明 さん

* ひとつこと: 先ごろ亡くなられた梅原 猛さんの最大の話題作です。法隆寺は仏法鎮護のためだけでなく、聖徳太子の怨霊を鎮魂する目的で建てられた、と梅原さんは主張する。湯川秀樹博士は～ロマンチックな学者というものがある。それはつねに大胆な仮説を提供し、学会の通説を変更することに生きがいを感じる学者である。梅原君のこの本によって法隆寺を中心に古代の日本全体が生々しく甦ってくる～と語っています。みなさんもぜひ一緒に！

■会場: 足利市民活動センター

■参加費: 無料

■お問い合わせ・事務局: 足利市民活動センター ☎44-7311

* センターからのご案内 *

☆みんなの広場 ～ 2月・3月のご案内 ～

* 2月 3日(月)～ 2月13日(木) 書・田中佑雲 回顧展

* 2月17日(月)～ 2月27日(木) 全国郷土のひな人形 展

* 3月 2日(月)～ 3月12日(木) 東日本大震災9周年 展

* 3月16日(月)～ 3月19日(木) 「足利風」の森 展

☆相談室&講座のご案内

* 相談室 = 毎月第2・第4水曜 午後2時～4時 ※詳しくは、別紙参照

* 講座 = 毎月1回 午後7時～9時 ※詳しくは、別紙参照

編集後記

ナベサダ(渡辺貞夫)のニューヨーク・ブルーノートでのLIVE演奏をBSで観た。最後に、東日本大震災復興応援歌「花は咲く」を涙く様なサクソで演奏した。客のニューヨークカーたちも泣いていた。以前、渡良瀬河畔で1万人集めてナベサダのJAZZコンサートをしたことが思い出された。久しぶりにサクソの響きに涙した。ナベサダの手柄が滲み出た演奏だった。(カサブランカ)